

# 特集 身近に暮らす 両生類・は虫類

ビルや住宅が多く立ち並び目黒区。そんな中でも実は、家の庭や公園の草むらなど、小さな緑の中に野生の生物は息づいています。今号では区内に住むいきものスポットを当て、その生態と区の環境保護の取り組みなどを紹介します。

園みどり土木政策課みどりの係 ☎5722-9359、☎3792-2112

正解は ヤモリ でした!

## 区内に住む 両生類・は虫類 ノート



主に幼生期にはエラで呼吸し、成長すると肺で呼吸する。尾があるもの(有尾目:イモリ、サンショウウオなど)と、尾のないもの(無尾目:カエル)に分類される。区内に生息※▶ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ウシガエル



両生類から進化したといわれている。卵は乾燥に強く、うろこを全身にまとうことで、陸で生活できるようになった。うろこがあるもの(有鱗目:トカゲ、ヘビなど)とカメ目に分類される。区内に生息※▶シマヘビ、ジムグリ、ハナガメ、ニホンスッポン、ミシシッピアカミミガメ

※下記の8種以外に生息するもの

### ニホンアマガエル



体長 オス2.2~3.9cm、メス2.6~4.5cm  
特徴 周囲に合わせて体の色を変える。指先には吸盤があり、垂直面に張り付くことができる。雨が近づくと鳴く性質がある。

### アズマヒキガエル



体長 4.3~16.2cm  
特徴 夜行性で、湿地や水辺に住み、庭の池などに産卵することがある。攻撃されると目の後ろの耳腺から毒を出すことがあるので注意が必要。

### ニホントカゲ



体長 20~25cm  
特徴 庭や公園の草むらなどに住み、若いオスの尾はきれいな青い金属光沢をしている(上画像)。攻撃されると尾を切って逃げる性質がある。

### ニホンヤモリ



体長 10~14cm  
特徴 主に人家の近くで見られる。列状のウロコと無数の毛におおわれた指先で、木の幹や家の壁に張り付いて虫などを捕食する。

### ニホンカナヘビ



体長 16~27cm  
特徴 草むらのある公園などに住んでいる。トカゲの仲間、体はほっそりとスマートだが、顔をアップで見ると恐竜の風格がある。

### クサガメ



体長 最大オス20cm・メス30cm  
特徴 水辺や湿地に住む。甲羅は黄色にふちどられ、頭から首にかけて黄緑色の線模様がある。碑文谷公園などの池や目黒川で見られる。

### アオダイショウ



体長 110~192cm  
特徴 大きな緑地などで見られ、木登りも泳ぎも得意。人家の近くに住み、日本のヘビでは最も大きくなるが、性質はおとなしくて無毒。

### ヒバカリ



体長 40~60cm  
特徴 水辺などに住み、夕方から夜に活動する。成長しても小さめで細く、かわいらしいヘビ。体は黒ずんだ茶色で、首のあたりに黄白色の模様がある。

実は、ほくたちが住みにくい環境になってきているんだ

両生類・は虫類は、木々の緑や土、水辺が大好き。でも、都市部ではそんな住みやすい自然のある場所も少なくなってきています。そんな中でも、両生類・は虫類は公園や庭、ちょっとした草地など身近なところで暮らしています。

緑が多く見えるけれど、意外と土のある場所は少ない

# りょうせいはいい ちゅうるい 両生類・は虫類のためにできること

## 碑文谷公園のエコスタック

エコスタックとは、いきものすみかになるように、石や枝などを積んだ場所。碑文谷公園では、石を積んだエコスタックづくりのほか、いきもの調査なども行っています。



## 区の取り組み

## 東山公園のビオトープづくり

ビオトープとはいきものが住む空間のこと。区は公園などにビオトープをつくり、ボランティア団体と一緒にいきものすみかを守っています。



▲ボランティア団体の自業サンスチュアリーズが管理。毎月第1・3土曜日10:00~12:00は一般に解放され見学可

## きも 君も 取り組んで みよう

## いえ にわ 家の庭で いきものたちの すみかづくり

適度な湿気と隠れる場所、植物があると、小さいいきものが遊びにきます。植木鉢を置いたり、庭のすみに石やブロックのかけらを重ねたりすると、いきものすみかになります。鉢の陰で冬眠するカエルもいるそうです。



▲玄関先の水がめで泳ぐヒキガエルのオタマジャクシ

めぐるのいきものを知る お助けアイテム

## 「めぐるのいきもの80選」

区民が選んだ身近ないきもの80種に加え、区内で見られる野鳥、野草、昆虫など約300種を紹介した冊子。観察地マップなど、いきもの観察に役立つ情報が満載です。詳細は区(コード①)をご覧ください。

¥400円



## いきもの情報を 募集しています!

いきものを見つけたら、いつ(○月○日)、どこで(○公園)、どんないきもの(できれば写真を撮る)を見つけたか、発見情報を送ってください。専用(コード②)、電話、郵送・FAX(発見情報、氏名(匿名可)、電話を記入)で、みどり土木政策課みどりの係(〒153-8573目黒区役所〈住所不要〉、☎5722-9359、☎3792-2112)へ。



## 教えて! いきものとの触れ合い方

都心には緑が少ないという印象がありますが、両生類・は虫類たちは、小さくても緑があれば、住宅地の公園や家庭の庭などで暮らしています。でも、小さいからこそ簡単に壊れてしまう環境でもあり、注意してほしいところもあります。

例えば丸太1本あれば、その下にはトカゲや昆虫なども含め多くのいきものがいますが、観察した後はまた元の状態に戻し、いきものたちの住む場所を壊さないように観察してください。家庭でも、鉢植えなどを置くと草花を楽しむこ

とができ、小さいいきものは鉢の下で暮らすことができます。石や落ち葉を庭のすみに積んでおくだけでも、いきものすみかになり、触れ合う機会も増えるでしょう。いきものたちとの触れ合いは、距離感が大事です。いきものは触られることが苦手、急に近づくと逃げますが、じわじわ近づけば近くで見ることができます。そうした反応を見ながら試していくと、ちょうどよい距離感がつかめて、いい触れ合いができると思います。



駒場野公園自然観察舎 岡本 明久さん

子どもの頃から虫が大好き。人と自然をつなげるインタープリター(解説員)として活動。

自然観察舎では公園内で保護したいいきものを展示しています。ぜひ遊びに来て下さいね!

## Q スペシャルクイズ

自然観察舎にいるアマガエルの指先の形はどっち?



1

2

答えは 自然観察舎に行ったら確かめてみよう!



駒場野公園自然観察舎 駒場2-19-70 9:30~16:30 休館日 月・火曜日(祝・休日の場合は開館)、年末年始